

天皇皇后両陛下が 森林総合研究所林木育種センターを 初めて御視察されました

第74回国民体育大会御出席のため茨城県を御訪問された天皇皇后両陛下は、令和元年9月29日、日立市に所在する(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターを初めて御視察されました。



天皇皇后両陛下を沢田理事長がお出迎え

同機構^{さわだ}沢田理事長から機構の概要、また、上^{かみ}林木育種センター所長からセンターの概要をそれぞれパネルで説明した後、育種素材保存園でエリートツリー（特定母樹）を御覧いただきました。

植栽後7年で、親世代に当たる第一世代精英樹の2倍に成長した状況に、天皇陛下は「成長が大分違いますね。（エリートツリーと精英樹を比較されて）」との御感想を述べられました。また、「エリートツリーは今後どうしていくのですか。」との御質問があり、^{たかはし}高橋育種部長から、林業の現場に届けるための普及推進や更なる改良を目指した第三世代開発の取組を説明しました。

皇后陛下からは、「第一世代はどのように選んだのですか。」との御質問があり、昭和30年代当時、林野庁や都道府県等が連携して、全国各地の「山一番の木」を精英樹として選抜した



御熱心に説明を聞かれる両陛下



エリートツリー（第二世代精英樹）について説明
右から上所長、高橋育種部長（御説明者）、沢田理事長
左端は大井川茨城県知事

旨を説明しました。

林木ジーンバンク保存施設では、約1万種類の種子をそれぞれに適した温度条件(プラス2℃からマイナス160℃)で冷蔵・冷凍庫に保存している状況を御覧いただきました。ブナ種子の長期保存に取り組み、成功したことを説明したところ、天皇陛下からは、「どれくらいの期間保存できるのですか。」との御質問があり、^{うぶかた}生方遺伝資源部長から、理論的には半永久的に保存が可能で、長期保存した種子を播種すると正常に発芽し苗木になることを説明したところ、両陛下は驚かれた御様子でした。

(企画部 育種企画課)